

林野庁長官賞

未利用材を利用した高付加価値工業製品の開発と家具建具建築部材の 安定的供給システムの確立

地域の異業者が共同化

高性能の木製サッシ

情報を発信する基地

協同組合ウッディあさひかわ

理事長 久保 武司

□事業体の構成

建具家具等製造業者 4 建設業者 3 製材業者 3

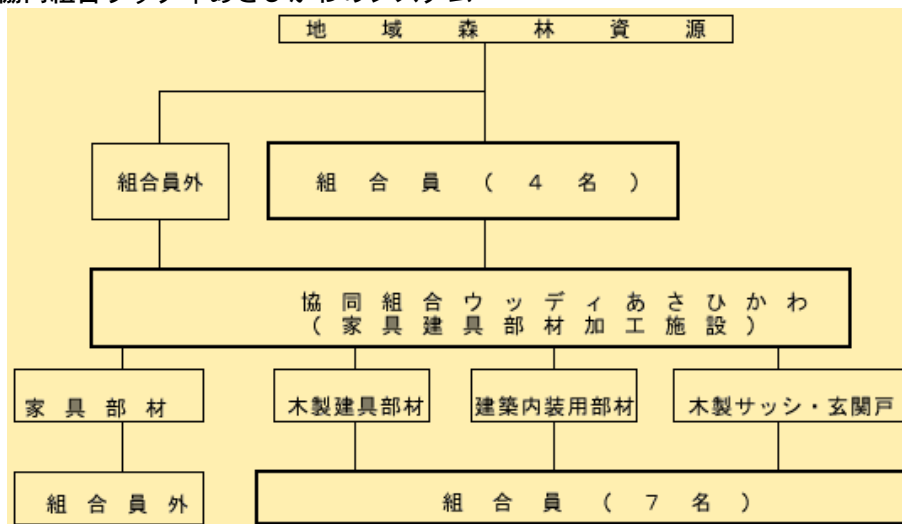
製材販売業者 1

〒078 北海道旭川市南7条20丁目

TEL0166-31-9389



□協同組合ウッディあさひかわのシステム



1 地域のあらまし

協同組合ウッディあさひかわは、北海道のほぼ中央、上川支庁管内に位置し、人工36万人を抱える北海道第2の都市である旭川市に所在する。この地域の東部には北海道の屋根といわれる旭岳を主峰とする大雪山系があり、十勝岳連峰へ連なり、北には天塩山脈、南には夕張山脈の山々がそびえ、これらの山地に囲まれて、本道の農業の中心地である広大な上川盆地が形成されている。

気候は内陸性気候で、冬期は寒さが厳しく、1～2月の平均気温は-8℃に達し、また夏期は気温が高く、7～8月の平均気温は20℃に達し、その較差は大きい。

この地域（上川支庁管内）の森林面積は、総土地面積（98万5,000ha）の

76.6%に当たる75万5,000ha（全道森林面積の13.5%）、蓄積は7,440万1,000m³（全道森林蓄積の12.8%）である。所有者別森林面積では国有林が59.3%、民有林19.4%、道有林15.7%、大学演習林5.6%となっており、国・道有林は木材供給源として地域林業の活性化に大きく寄与している。また人工林は20万8,000haで人工林率は27.6%となっている。人工林はカラマツ、トドマツ、エゾマツ等が主体であり、天然林はミズナラ、カンバ類、シナノキ等の広葉樹が多くを占めている。この地域の天然林広葉樹は、厳しい気候条件の中で生育しているため、年輪が緻密で世界的にも良質材・高級材として評価が高く、インチ材として欧米にも輸出される一方、家具製造業をはじめとした木材関連産業により古くから利用されており、当地域の木材関連工業製品の出荷額（1,597億円、平成4年）は、地域における工業出荷額（4,304億円、平成4年）の37%を占め、特に高級箱物を中心とする家具製造業は、全道総出荷額の33%を占める441億円となっている。

しかし、近年、国・道有林では質的・量的低下が進む一方、民有林ではカラマツ・トドマツを中心とした人工林の成熟化による間伐材を主体とした出材量が増大傾向にある等、森林資源の質的量的転換期を迎えている。

また、家具製造業では、バブル経済崩壊後、他産地や安価な輸入製品との競合、新設住宅への据付家具の浸透などにより需要動向は変化しつつあり、新たな対応が迫られている。

2 事業の目的

こうした森林資源の構造的変化と、多様化してきた需要者ニーズに対応するための生産加工体制への移行が地域の大きな課題となっている。しかし、製材業や家具建具製造業は中小企業が多く、経営基盤も脆弱であるために、自らの体質改善を図ることが困難な状況にあった。そこで、個々分散的に加工している地域の家具建具製造業者4社、製材業者3社、建築業者3社、製材販売業者1社が共同化することにより、経営基盤の強化を図り、大規模で合理化された家具建具部材加工施設を整備し、高付加価値製品の開発、製造、販売に取組み、多様化した需要者ニーズに即応できる多品種大量生産供給体制の確立を図るために、当組合は平成2年4月4日に設立された。

3 目的達成への歩み

旭川地域では古くより家具製造業が発展してきたが、中小企業が多く、最近の需要者ニーズの多様化等に対応できる供給体制への移行は地域的課題となっていた。そのため、当組合は、林野庁の国産材産地体制整備事業の補助を受け、大規模で多品種大量生産に対応可能な生産施設を整備することとした。

平成2年度に、基盤整備および地域の森林資源であるカラマツ、エゾミツ等を使用した家具・建具部材を生産するための作業用建物（972m²）3棟及び加工機械等を導入、3年度に、資材製品保管庫（342m²）及び乾燥施設（50石用）2台を導入、4年度に、主としてカラマツを集成化し、さまざまな表面、断面にツキ板及びシート貼りを行う生産施設（936m²）1棟及び各種加工機械を導入し、木製窓・戸、ベッド枠等家具建具部材、クラフト等の生産を行っている。さらに、6年度には、これら施設により加工された製品の販路拡大と需要の拡大を図るために、木造施設展示館を整備し、地域における林業・林産業の情報発信基地としての役割を果たしている。

なお、当組合の施設はいずれも北海道産材を使用した木造で、これまでの木材工場のイメージを一新したユニークなデザインとなっており、日中の工場内は電灯がなくても作業ができるよう明るく、また、全棟床暖房で老人や女性にも快適に作業ができるものとなっている。

4 事業の内容・実績

(1) 家具建具建築部材の多品目大量生産施設の整備

当組合では、木製サッシ、木製ドアを主力製品とした、受注方式による多品目・大量生産ラインを整備し、高品質な高次加工製品を安定的に供給する体制を確立した。

（平成5年実績：木製サッシ・玄関戸7,287本、家具部材加工品14,350本、建築内装・木製建具部材加工品1,093m³、総売上高6億9,700万円）

(2) 低位利用材の用途開発

当組合の主力製品である木製サッシ、木製ドアの原材料のシウリザクラは従来、パルプ向けが主な用途であった。しかし、かつては、船の櫓、風呂桶、そり、スキー板等に用いられており、耐久・耐蝕性に富み、収縮はゼロに近いという点に注目し、当組合では、乾燥から部材加工、接合、塗装、耐久性、防火性など多方面にわたる試験、技術開発を北海道立林産試験場の技術支援を受けながら実施し、国内産広葉樹を原材料とする木製サッシ、木製ドアを製造する唯一の組合となった。

(3) 新商品の開発

当組合では木材を原料とする製品が使われていない分野へ参入し、木材の利用拡大を図るため「木材防火窓」、「車庫用ガレージシャッター」、「木製防火戸」等を開発し、商品化を行った。特に木製窓についてはアルミサッシや樹脂サッシが急速に普及するなか、木製建具の常識を破る高断熱、高気密の高性能木製サッシを開発し、全国的な評価を受けることになった。また、木製窓や戸の防火性を高めたことにより、建設省より国内産初の木製防火窓枠に認定され、住宅が密集している大都市圏や、リゾートホテル等の大型物件にも多数採用されるようになった。

(4) 高次加工製品の販路拡大

当組合では、最新の設備により生産された高品質製品である優位性をセールスポイントに、公共建築物をはじめ個人住宅までの注文に応じる形で、道内はもとより、東北、関東、九州にまで販路を広げている。

(5) 地域材普及のための大規模木造建築の建設

当組合の作業用建物、製品保管庫等はカラマツ・トドマツ人工林間伐材を多用した大規模建築物であり、現代的な形にデザインされているために、視察者も多く、カラマツ・トドマツ等地域材の普及PR効果は高いものとなっている。

(6) 地域における雇用の場の創出

当組合の所在地は旭川市から南東へ16kmほどの田園地帯に位置する人工900名程度の小集落で、当該地域における就労の場は少なく、就労の場として重要な役割を果たしている。また、当組合には「定年」がなく、最高齢74歳を筆頭に55歳以上の従業員20名が働いている。当組合の雇用形態は、高齢化社会を目前にしたこれからの雇用のひとつの指標となるものである。

5 今後の取組み

(1) 人工林間伐材の用途開発

当組合では、従来積極的に利用されていなかった樹種を高次加工を施ることにより付加価値を高め、商品化を進めてきたが、今後は人工林間伐材の利用方法についての開発を行い人工林材の需要拡大を図る。

(2) 地域材高次加工製品の普及

当組合では生産施設の整備を行い高次加工製品を安定的に供給する体制を確立するとともに、地域材木造展示施設を整備したが、今後はこれらの施設を利用して、地域材を利用した製品の販路拡大と需要の拡大を図る。

(3) 需要者ニーズに応じた高次加工体制の確立

建築部材の需要者である工務店等は、大工不足により、現場での省力化を図るため、完成度を高めた各種部材の供給を要望している。当組合の主力製品は木製サッシ・ドア等の建具及び家具部材であり、今後、工務店等への販路拡大を図るため、完成品に近い形まで、加工し供給する高次加工体制を確立する。